

# 令和元年度実施施策に係る政策評価書

(経済産業省1-4-1)

|                               |  |           |             |       |       |       |
|-------------------------------|--|-----------|-------------|-------|-------|-------|
| 政策名                           | 4 対外経済   | 施策名       | 4-1 国際交渉・連携 |       |       |       |
| 施策の概要                         | 国際的な貿易・投資ルールの構築、海外市場での我が国企業の競争条件の改善に取り組む。  |           |             |       |       |       |
| 達成すべき目標                       | 経済連携協定や投資協定等の締結拡大や、海外市場での我が国企業の競争条件の改善等を通じて、我が国企業の海外における事業環境を整備する。   |           |             |       |       |       |
| 施策の予算額、執行額等                   | 区分   | 29年度      | 30年度        | 元年度   | 2年度   |       |
|                               | 予算の状況<br>(百万円)   | 当初予算(a)   | 3,647       | 3,448 | 3,702 | 3,721 |
|                               |  | 補正予算(b)   | 139         | ▲ 3   | 895   | -     |
|                               |  | 繰越し等(c)   | 1,202       | 564   | 0     | /     |
|                               |  | 合計(a+b+c) | 4,988       | 4,009 | 4,597 |       |
| 執行額(百万円)                      | 4,437  | 3,726     | 4,373       |       |       |       |
| 施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの) | 日本再興戦略(平成29年6月14日閣議決定)、日本再興戦略 改訂2014(平成26年6月24日閣議決定)、日本再興戦略 改訂2015(平成27年6月30日閣議決定)、日本再興戦略2016(平成28年6月2日閣議決定)、未来投資戦略2017(平成30年6月9日閣議決定)、未来投資戦略2018(平成30年6月15日閣議決定)、「成長戦略(2019年)」(令和元年6月21日閣議決定) |           |             |       |       |       |

|      |   |  |  |       |       |       |               |       |    |
|------|---|--|--|-------|-------|-------|---------------|-------|----|
| 測定指標 | 1 | 経済連携協定の締結状況                                  | 施策の進捗状況(実績)  |       |       |       | 目標値           | 達成    |    |
|      |   |  | 我が国では、現在、21の国・地域との間で18の経済連携協定を署名・発効済み。令和元年度で新たに署名・発効された経済連携協定は無いものの、RCEP、日・トルコEPAなど、包括的かつ高いレベルの経済連携協定の締結に向けて閣僚会合、交渉会合を行い、交渉に取り組んでいる。 |       |       |       | 交渉・署名・発効国数の増加 | -     |    |
|      | 2 | 貿易のFTA比率(%)<br>※総貿易額に占めるEPA/FTA締結済み国との貿易額の割合 | 基準値  | 実績値   |       |       |               | 目標値   | 達成 |
|      |   |  | 24年度   | 28年度  | 29年度  | 30年度  | 元年度           | 2年度   | -  |
|      |   | 18.9%  | 40.0%  | 40.3% | 51.6% | 52.4% | -             | 70.0% | -  |
|      |   | 年度ごとの目標値                                     | -  | -     | -     | -     | -             | -     | -  |

|      |   |             |      |      |      |      |     |     |     |     |
|------|---|-------------|------|------|------|------|-----|-----|-----|-----|
| 参考指標 | 1 | 貿易収支(兆円)    | 基準値  | 実績値  |      |      |     |     |     |     |
|      |   |             | -    | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度 | 2年度 | 3年度 | 4年度 |
|      |   |             | -    | 5.8  | 4.5  | 0.6  | 0.7 | -   | -   | -   |
|      | 2 | 第一次所得収支(兆円) | 基準値  | 実績値  |      |      |     |     |     |     |
| -    |   |             | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 元年度  | 2年度 | 3年度 | 4年度 |     |
|      |   | -           | 19.4 | 20.5 | 21.5 | 21.0 | -   | -   | -   |     |

(出典)財務省 国際収支状況

|      |               |  |
|------|---------------|--|
| 評価結果 | 目標達成度合いの測定結果  | (各行政機関共通区分)<br>相当程度進展あり<br><br>(判断根拠)<br>令和元年度において新たに署名・発効された経済連携協定は無いものの、RCEP交渉は4回の閣僚会合と3回の交渉会合、日・トルコEPA交渉は各1回の首脳・閣僚会談と4回の交渉会合を行うなど、署名に向けて着実に交渉を進めている。<br>RCEP交渉では、2019年11月に第3回RCEP首脳会合が開催され、16か国の首脳が共同首脳声明を発出し、RCEP参加15か国が2020年における署名のために15か国による法的精査を開始するよう指示するなど、2020年内の署名に向けて交渉を進めている。また、日・トルコEPA交渉では、2019年7月に行われた首脳会談にて、早期妥結に向け更に交渉を加速することを確認した。<br>これらの成果に加え、貿易のFTA比率が増加してことも踏まえ、相当程度進展ありとした。  |
|      | 施策の分析         | <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度は、2019年の世界経済拡大と、2020年の新型コロナウイルス感染拡大による需要・供給ショックや人・モノの移動限を契機とした経済活動停滞の大きな流れがあった。一部の物品で国際的に生産拠点の集中度が高くなっていったことに加え、各国の輸出規制により、供給途絶リスクが顕在化した。保護主義や貿易制限的措置は、被発動国および発動国の双方にマイナスの影響を及ぼすのみならず第三国へも影響が波及し、市場を歪める結果となる恐れがあることから、持続的で安定的な世界経済成長を実現していくためには、新たなルールベースでの国際秩序の構築に取り組む必要がある。</li> <li>このような状況下において、令和元年度は、RCEP交渉や日・トルコEPA交渉等において、大きな進展があった。</li> <li>引き続き、我が国企業の更なる競争力強化、サプライチェーンの強靱化に向けて、RCEPや日・トルコEPA、さらに2020年1月にEUを離脱した英国との日・EUEPAに代わる新たな経済連携協定など、包括的かつ高いレベルの経済連携協定に向けた交渉を加速させることが必要である。また、締結したEPAについても、今日の経済情勢に即した一層質の高いものとするべく、見直し協議に取り組む必要がある。</li> <li>さらに、中小企業も含めより多くの事業者がEPAを有効に活用してもらうべく、その利用の一層の促進が求められる。</li> </ul> |
|      | 次期目標等への反映の方向性 | 上記施策の課題に対応するため、引き続き上記測定指標に基づき、経済連携協定の締結に向けた交渉等に、スピード感を持って取り組んでいく。  |

|                 |  |
|-----------------|--|
| 学識経験を有する者の知見の活用 | 政策評価のあり方を検討する場として、「政策評価懇談会」を設置。その議論を踏まえて省としての政策評価体系や評価の在り方を決定。 |
|-----------------|--|

|                           |                        |
|---------------------------|------------------------|
| 政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報 | 通商白書(経済産業省)、国際収支(財務省)等 |
|---------------------------|------------------------|

|       |          |          |        |
|-------|----------|----------|--------|
| 担当部局名 | 通商政策局総務課 | 政策評価実施時期 | 令和2年8月 |
|-------|----------|----------|--------|